

地域の高等学校教育のあり方に係る意見を聴く会 意見概要 ＜彦根市PTA連絡協議会＞

- 日 時 平成24年(2012年)6月2日(土) 11:20～12:20
- 場 所 彦根市南地区公民館
- 参加者 彦根市PTA連絡協議会 約40名
- 主な意見 ※ 同趣旨のご意見については集約してとりまとめました。

- 広く彦根市の小中学校の児童生徒の保護者から意見を聴くのであれば、PTA会員でない保護者にも広く周知し、もっと広い会場で意見聴取会を実施して欲しい。そして、未来を担う子どもたちのためになるよう、意見を再編計画に盛り込んで、より良いものにして欲しい。
- 保護者や一番影響を受ける生徒に全く説明が足りない。直接説明がない。中学校単位で複数の日程を立てて、説明会を開催すべき。その時は、PTAではなく、各校の校長を通じて保護者に対して呼びかけて欲しい。
- 昨年の説明会の開催について、生徒や保護者への説明不足は否めない。更に説明のタイミングが良くない。
- 情報の少なさ、情報が開示されないまま進んでいくことに不安を感じた。諸事情があれば変化するのは仕方ないと思っているが、乱暴な印象を受けた。子どもたちにプラスになる内容が伝わりづらかった。子どもたちにプラスにならないような形で進むのは残念。
- 高校の先生の再編について内容をあまり知らないような発言に驚いた。なしくずしという印象を受けた。時間をもっとかけて欲しい。
- 去年は唐突な話で混乱した。子どもたちに一番影響を与えていることが問題。教職員に情報が下りていない状態で、色々な話が生徒たちになされ、高校の説明会でも、どれが本当の話なのかということもあった。情報がない中で、子どもたちにいろんな伝わり方をすることが問題。保護者にも情報開示するとともに、教職員への指導もよろしく願いたい。
- 彦根市PTA連絡協議会は、既に意見提言を行っているが、答えが返ってきていない。パブリックコメントについての答えもない。意見を聴くと言っているが、ボールは県教育委員会の方にある。
- 去年の10月7日に、彦根市PTA連絡協議会から再編にかかわる意見提言を提出した。これについてもしっかりと受け止めて回答いただきたい。
- 広く全小中学校の校長、PTAの意見をまとめる形をすぐにとって欲しい。
- 進め方に唐突感があるなど、去年と同じ意見。いろんな意見が言える時間を保障することが大事。
- 受検時期が近づいたら考えようと、漠然としか再編を考えていない保護者も多い。統合対象校や手順など、統合の骨格を示しての意見交換をもう一度行って欲しい。
- 昨年出した原案を基本計画まで見直すのか、実施計画の部分を見直すのか、どのような手順で、どの段階で保護者の意見を聴いて、それを修正案にどのように反映するのか、スケジュールをしっかりと示して欲しい。
- 説明がないというが、自分でもっと情報を入れることも必要。全国で年間、小中高の公立学校 400 校が廃校になっている。日本経済が破綻し、税収が入らず、公的な機関が機能し

ない状態になる。子どもが少なくなるのに学校を既存のとおりにおいて、税金の無駄遣いと言われたら行政は何も動けない。再編は当然のことと思うが、やり方が突然だったのでみんな驚いた。総務省や文部科学省の資料、必要な教員数や経費などを提示して説明すればもっと理解を得られる。様々な部分で税金は使われている。有効な使い方をして欲しい。

- 子どもたちのことを中心に議論を進めて欲しい。進学については、子どもの自己実現についての視点が重要。どんな学校で、どんな学びができるのかが将来に関わってくる。それが見えない中で、どのように進路指導するのかという混乱も聞いている。
- 子どもたちが学んで励めるような、新しい学びの創設を、新しい学科も含めて検討して欲しい。
- 高校卒業後、企業に勤める生徒も多くいる。将来の社会人をどのような場で育てていくのかというビジョンを教育委員会として持つ必要がある。
- 未来を担う子どもたちが、教えてもらうだけでなく、自ら学ぶ、得意分野を伸ばせる、滋賀県の教育の筋が通ったもの、これからの滋賀県の子どもたちをこのように育てたいというものをオープンにすべき。
- 滋賀県内には企業が多い。これからの日本を支えていく子どもたちを育てるような高校再編にして欲しい。
- ゆとり教育の影響で子どもの学力が落ちている。学力は日本を救う力。移民の増加などで職を失わないよう、高等な教育が必要。子どもたちが勉強できる体制、ハイレベルな教育が受けられる体制づくり、高校再編を行って欲しい。
- 審議中である国の第2期教育振興基本計画の内容も反映した再編計画にして欲しい。
- 統合の対象校を決定する際、もう少し地域の声に耳を傾けても良い。地域が高校を支えている部分がある。どの高校を再編の対象にするのか再度検討を。地域や企業の協力があって、高校も成り立っている。
- 教育のレベルの高い方の学校を残して欲しい。また、伝統のある方の学校を無くすのは反発がある点を考慮すべき。
- 全県一区になって、一定の学校に集中した受検になっている。高倍率の学校もあれば、定員割れをして二次募集しなければならない学校もある。
- 中学校は絶対評価で通知簿がついている。平等で良い考え方だが、自分の本当の成績がどこにあるのか分からない。中学校の先生も「たぶん大丈夫だろう」とは言えても絶対確実とは到底言えない。特に、中堅クラスの子どもたちがどこの学校に行けばよいのか分かりやすいようにして欲しい。
- 再編の際には、高校の募集定員に特に気を付けて欲しい。募集定員が子どもたちに平等になるようお願いしたい。
- 彦根翔陽高校と彦根西高校の統合により、学年あたり3クラス分の定員減少の受け皿がない。彦根市内で受け入れる態勢を整えるべき。
- 定時制の統廃合にはショックを受けた。今まで定時制という選択肢があったものが、他の市町に行かなければならなくなる。また、弱者により厳しい選択を求めるようになることを、良いことが沢山あるように書いてあることもショックだった。定時制についてはきちんと考えて欲しい。

- 彦根東高校の定時制と彦根工業高校の定時制の廃止については、もっと家庭環境や地域に十分考慮した計画にすべき。
- 定時制課程について、就労しながら学んでいる子どもにとって、学校が遠くなることは通学する機会を失うのではないかと懸念する。学びながら仕事をする子どもたちに負担となる。
- 短期間で複数の学校を統廃合しようとしている。今までに順次やっておくべきであったことを先延ばしにした付けが今来ている。統廃合の期間にいる子どもたちだけがリスクを負わないように、10年～20年のスパンで順次実施すべき。
- 後輩がいなくなるような統廃合は教育的にあり得ない。1つの校地に3校が併存する形をとってでも、校名は異なるけれど後輩がいる形の統廃合とすべき。
- あいさつ運動を展開しているが、先生の方がしない。先生のやり方、生徒への接し方によって、学校のカラーが変わる。学校の先生の問題も考えて欲しい。
- 一昨年の11月、彦根サンパレスで意見を聴く会があったが、今まで出された意見もその時出された意見とほぼ同じ。保護者に情報がしっかり伝わるようにして欲しい。